

評価実施年度	令和 6 年度	学校名	大分県立 日田 高等学校	
学校教育目標	校訓「剛健・積極・明朗」の体現 ～ 志高く、知・徳・体の調和のとれた心豊かでたくましい人間を育成する～ 〈剛健〉課題や困難な状況に対し、粘り強く取り組み、失敗しても諦めずに再挑戦することができる 〈積極〉様々な体験を通して、自分の興味・関心を深め、自分の進むべき道を考えることができる 〈明朗〉豊かな人間性を備え、多様性を享受し課題解決に向けて他者と協働することができる			
重点事項	評価項目	評価の観点	評価	今後の改善方法(学校作成)
カリキュラム・マネジメントの確立	学校教育目標	○的確な学校経営ビジョンが策定されていて、学校教育目標の達成に資するために重点目標の焦点化が図られ、校長のリーダーシップの下、全教職員による教育活動が展開されているか。	・極めて良い。 ・学校教育目標や重点目標が大学進学だけでなく、社会に出た後に活躍することを見据えたものになっている。 ・SS探究(探究科目)だけでなく、各教科にわたる「社会の繋がりを意識した授業改善の取組は高く評価できる。 ・重点目標としたグラデュエーション・ポリシーが、地域の求める人材の教育方針として正しく合致している。 ・校長のリーダーシップの下、目標等が指標化され、管理職等での共有ができています。	・引き続き学校教育目標の実現に全教職員で取り組んでいく。 ・スクール・ミッションにあるように、地域や世界の課題解決や新たな価値の創造を目指した学習活動をととして、科学技術分野のイノベーターとしての素養や地域未来の開拓に必要な力を育成していく。
	P D C A サイクル	○重点目標を達成するための焦点化された取組指標や達成指標等が適切に設定され、機能しているか。 ○取組指標や達成指標等の評価・検証を計画的に行い、以後の実践に直ちに反映させるなどP D C Aサイクルが確立しているか。 ○予期しない課題が判明した時点で、その解決に向けて校内分掌が速やかに機能するように、組織的な責任・運営体制は整備されているか。	・極めて良い。 ・目標に対する指標の設定は合理的であり、指標に対する達成度も高く、校内での各種取組の有効性が伺えた。 ・アンケートや第三者評価の結果を踏まえた取組の評価が適切になされ、改善に繋げる行動が起こされている。 ・アンケート類を適時に実施し、結果を次の取組に反映すべく行動が起こされていると見受けられる。	・今後も授業と学習評価が一体となった授業改善を実施し、マネジメントを推進する。
	社会との連携・接続	○「開かれた教育課程」の理念に基づき、育成したい生徒像が家庭及び地域と共有されているか。 ・情報の伝達・公開を適切に行っているか。(ホームページ・SNSの活用、学校便りの発行等) ・生徒・保護者の学校への満足度や要望を把握する取組を行っているか。 ・地域内外の関係機関との連携や人材を活用しているか。	・極めて良い。 ・ホームページでの情報公開と市内全中学生への「日田高だより」の配布活動により、定員確保ができています。 ・広報内容は学業と部活動の両立の様子等も含めて、生徒の実感を踏まえた広報となっている。 ・ホームページの更新頻度を高め、情報を得た入学生の割合が昨年度19%→今年度29.8%と上昇している。 ・保護者の意見等により、体育祭の開催時期を変更するなど柔軟な対応が見受けられる。	・今後も生徒や保護者対象のアンケート等を実施し、的確にニーズを把握して学校運営に反映させる。 ・小・中学生に対して、SSH事業の科学実験教室等を行うことなどを通して、今後とも地域の将来を担う人材育成に寄与する。
主体的・対話的で深い学びの実現	授業の活性化	○授業の活性化が図られているか。 ・学ぶことに興味や関心を持ち、見通しを持って取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。 ・授業のねらいに応じて、言語活動の充実を図ることで、「対話的な学び」が実現できているか。 ・授業の中で、知識を相互に関連付けて深く理解したり、情報を精査して自己の考えを形成したりする「深い学び」が実現できているか。 ・ICTを活用して、授業の効率化や授業の振り返りにつながっているか。 ○総合的な探究の時間や課題研究の学びとその他の教科・科目の学びが有機的に結びついているか。 ○生徒の学習習慣が定着し、学力及び学習意欲の高まりがみられるか。	・良い。 ・RGB(Reserch Glocal Basis)や「社会へのつながり」を意識した授業改善が教科を越えて実施されている。 ・SS探究への様々な教科の教員の係わりが、教科を越えた協働的な学びの実施を支えていると考えられる。 ・校内授業研究会の計画と実施より、各教科の授業改善が進んでいる様子が確認された。 ・協働的な学びを促す授業に対する生徒の満足度が高いため、引き続き更なる授業改善を推進してほしい。 ・互見授業の相互評価シートの活用から、次への展開が良く見えるようになっている。 ・アンケート結果から生徒を中心とした授業展開が伺えた。教員の授業力を高める活動がなされている。 ・家庭学習時間の確保に向けて教員、生徒の努力が見られる。また、アンケート結果の充実度は評価できる。 ・保護者は更に高い学習時間の確保を求めているようだ。 ・成績上位の生徒たちは、探究を含む多くの授業に物足りなさを感じているようであり、今後の課題である。 ・授業以外に、休暇中の課題等も習熟度別の与え方を考慮するなどの工夫ができないか検討してほしい。	・互見授業や授業研究会等の実施により、授業力の向上、授業改善を図っていく。 ・発問や学習課題で思考を深める授業の実践や、系統的な進路学習の実践を通して、生徒の家庭学習時間の確保に繋げる。
安全・安心な教育環境	いじめ・不登校等の対策	○計画的な面談・相談を通して、個々の生徒の状況を理解した上で、生徒指導が学校の組織を挙げて行われているか。 ○いじめ・不登校防止対策に取り組む体制が整備され、いじめ・不登校問題に対して適切な対応がなされているか。	・極めて良い。 ・支援を要する生徒への教員の対応が、学年主任への働きかけや職員面談により改善されている。 ・インクルーシブな教育環境の充実に向けて、更なる改善がなされるよう期待したい。 ・教員、生徒への聞き取りでは「いじめはない」との返答であった。この状態を続けてもらいたい。 ・多欠席生徒への対応は一覧表としてマニュアル化しており、教員間で共有されている。	・多欠席生徒への対応マニュアルを再度確認し、より組織として機能するよう運用する。 ・インクルーシブな教育環境の充実に向け、職員研修などを通して教職員の理解を深め対応できる環境を作る。
	安全管理	○学校施設等の安全点検や通学の安全指導及び教職員・生徒の安全対応能力の向上を図るための取組が定期的に行われているか。 ○学校事故や非常災害など、緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理体制が機能しているか。また、生徒の安全を確保するための具体的取組が行われているか。	・良い。 ・第1回目の生徒ヒアリングで、自転車と自動車の出入口が同じことに対し、危険性を指摘する声があった。 ・上記を受けて、安全確保に向けての具体的な計画が立てられている。早急な実現に期待したい。 ・生徒の間では、安全性に対する学校の取組への信頼度が高い。 ・グラウンドに隣接する部室への外部者の侵入に対応することが必要となっている。	・校内の危険箇所については、引き続き日常的に安全点検を行う。 ・部室の鍵の管理については、部顧問への周知を徹底する。
信頼される学校づくり	働き方改革	○生徒と向き合う時間を確保し、生徒に対して効果的な教育活動を行うことができるよう、働き方改革が推進されているか。 ・会議・分掌業務、学校行事の精選、見直しを図られているか。 ・組織的な指導・運営体制の構築と学校の活動方針の徹底等による部活動改革に取り組んでいるか。 ・情報共有の効率化や校務情報化の推進など、ICTの効果的な活用によって業務改善が図られているか。	・管理職と分掌主任による「未来ビジョン会議」が設置され、主幹教諭を中心に運営されている。 ・上記会議の前例踏襲にならないように「当たり前となっている前提を問い直す」というねらいは注目に値する。 ・業務の精選を行う等、学校の目的や目標に応じた業務の見直しや改善が図られることを期待したい。 ・時短を進めるために、担当者数と会議を増やすことで対応している。見事な考え方であると評価できる。	・更なる業務の効率化を目指し、目的や目標に応じ業務の見直しや改善を適宜進める。
	学校課題の解決に向けた取組等	○定員確保に向けた学校の魅力化に取り組んでいるか。 ○スクール・ミッション及びスクール・ポリシーの達成に向けた教育活動が計画されているか。	・2年生の探究学習では、SS探究に比べて文系や理系コースの生徒の満足度がやや低いことが見受けられた。 ・探究学習と進路が結びついたものだと自覚できるような指導が必要だと考えられる。 ・探究の時間がSS、文系、理系コースの全ての生徒の満足度に繋がるような体制を望む。 ・「学習カウンセリング」のような指導等、個々のニーズに合わせて学習計画を立てさせる指導が求められる。 ・将来確実に来る入学者の減少に対して、日田市、玖珠郡の小中学生への積極的な広報を続けてもらいたい。	・生徒全員の満足度が高まるよう、次期SSH申請は探究学習と進路の結びつきを具体的に反映できるものとする。 ・地域の小・中学生の科学に対する興味・関心を高めるなど、積極的な広報活動を進める。
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> 安定した学校運営の中で、安心して学校生活を送っている生徒たちの姿が見受けられる。地域の発展の核となる人材の教育ができています学校であるので、教職員、生徒、地域、行政の更なる努力を求めたい。 特色ある教育活動が地域との連携によって充実したものとなっており、その教育の魅力がホームページや学校だよりを通じて発信され、地域にも伝わって入学希望や教育の魅力化につながるという好循環が生まれている。 「日田高RBG」は生徒の成長の指標として非常に分かりやすく、行事や評価会議の折々に十分活用できるものである。 SSH(スーパーサイエンスハイスクール)事業での探究は成果を上げている。生徒の進路決定や人間力向上に影響を与えるだけでなく、「日田高のSSクラス(SSHの探究活動を更に深めるクラス)への進学」という目標が中学生に浸透している。 探究学習の意義をより生徒が実感できるよう、広い意味で進路と結びついたものだと生徒が自覚できるような指導が必要だと考えられる。 一律の学習課題は必要最小限に留め、多様な学びのニーズを持つ生徒が自分に合った学習を自律的に進められるよう、「学習カウンセリング」のような指導も含めて、個々のニーズに合わせて学習計画を立てさせる指導が求められると考える。 			
校長コメント(次年度の改善策)	<ul style="list-style-type: none"> 地域のリーダーとなる人材を育成するため、今後も地元の関係機関等と連携を図り、スクール・ミッションの体現を推進する。 SSH事業次期申請において、探究活動を進路と結びつけるなど、個々のニーズに沿ったものとなるよう準備していく。 教育相談体制を更に充実させ、安全安心な学校生活に繋げる。 働き方改革によりワークライフバランスを推進する。 			